

城坤コミュニティセンター市長懇談会

○日 時：令和元年 7 月 6 日（土） 午前 10 時 00 分～11 時 30 分

○場 所：城坤コミュニティセンター

○参加者：52名

○担当者：市長

地域担当職員 上村（市民課）・坪倉（健康課）

1. 重成所長 開会のあいさつ

2. 会長あいさつ

皆様の建設的な意見が今後の住みよいまちづくりの糧の資料となるので積極的に質問していただきたい。

3. 市長あいさつ

この場所を通じて地域の皆さんの色々な声を直接お伺いする。これまでもセンターや自治会の役員、職員等色々なルートで聞いているが、皆さんの困っていることや考えていること全てを吸い上げ切れてはいない。また聞いていてもなかなかできないこともある。財政や物理的な制約もある。そういう中でも地域の中で知恵を出し合って、できることをやるのが大事である。今日は大勢の方から色々な意見を頂戴したい。

4. 丸亀城石垣修復に向けて（市長）

丸亀城は一年前の西日本豪雨の影響で7月7日帯曲輪の一部が崩落した。このときは規模的には小さい崩落であった。その後10月8日、9日の2日に亘り角の部分が崩落した。これを令和5（2023）年度末には修復を終えたい。およそ31億から35億くらいかかるが、国からは7割の補助がある。ここは崩落する前から修理の予定があったので一定の予算は確保していた。まず応急対策工事を行い先月の半ばに完成している。今から降雨の時期に入るので、土砂崩れが広がらないよう現状を固定する工事である。今後1年半くらいかけて、下の石を全て取り除く。その後2年半から3年で下から順に昔どおりに組んでいく。なぜ崩れたかという点、土の中に溜まる水の絶対量が一定限度を超えた場合は、支えきれない状態が起きる。石垣の内側でも同じようなことが起こり、帯曲輪の石垣が外側に向いて倒れた。下側が崩れると帯曲輪は地滑り

状態で滑って落ちた。要は排水がきちんとされているかどうか。内側に水がたまらないようにすることが必要であることが分かった。以前から言われていたが、なかなかそういう対策ができていなかった。今年度から修復に併せて、崩落場所以外の丸亀城全体の排水構造や石の痛み具合等の調査と修理計画を立てている。組織体制としては、対策本部を作り、議会でも特別委員会を作っていただき全庁挙げた体制で取り組んでいる。状況等知りたい場合は、丸亀市ホームページで修復のコーナーがあるので確認していただきたい。募金を沢山寄せていただき、3億1千150万という今までなかったような募金が集められ、ありがたいことである。

自治会活動応援補助金は、自治会でいろいろなことをやられている、努力されている自治会を支援したい。活用を検討いただきたい。

5. 自由討議

① 丸亀城の水対策について（前塩屋東部自治会 男性）

市長の説明の中で、水対策は以前から言われていたということですが、私も大雨の時の丸亀城の異常な音は何年も前から聞いていて、それは市へも報告されているということでしたが、その対応が迅速でなかった。丸亀城は市民も観光客も多く来るので、その中の声を吸い上げて迅速に対応する。そういうことが必要でないか。今後についてはそういう声に迅速に対応するようお願いする。

② 新市民会館建設について（ 〃 ）

新市民会館の場所は丸亀城大手門の前、生涯学習センターの跡地と聞いている。丸亀城は日本一の石垣、現存する木造の天守閣で資源価値が非常に高いので観光客が多く来ている。一般市民も丸亀城を利用している。ただ、休憩するところや軽く食事するところがない。新市民会館が大手門の前にできるようになったら、新市民会館にくつろぎのスペースと軽食ができるスペース、物産販売のスペースを作っていただきたい。見返り坂に小さい建物があるがそこだけでは対応できない。ぜひ、新市民会館の中に作っていただきたい。

③ 自治会の加入促進について（ 〃 ）

昨年この場でも話したし、連合自治会の総会でも話したが、自治会に入れ入れという啓発だけでは入らない。自治会に入っていくかにメリットがあるか、自治会長がいかに意欲と自覚を持ってやれるかということにかかっている。今回自治会活動応援補助金が新たにでき、職員が一名配置されたことには感謝しているが、まだ十分ではない。自治会活動補助金は3万円で、どのくらいの自治会に出るか分からないが、こう

いう制度を充実させていただき、広く行き渡るようにしてほしい。大事なのは、自治会の存在意義は活動である。レクリエーションなり自主防災研修会なり、色々な活動をして人が集まり、お互いが顔を知る、名前を知る、あそこに住んでいる誰それさんであるというように身近に知っているということが、災害や防災等いざという時に役立つ。そのためには自治会の事業をしていく、事業をするには経費がいる。その経費の補助をしっかりとっていくことが大事だと思う。自治会の会費だけでは賄えない。今回第一歩ということで補助金が出たが、これに留まらず充実していただきたい。地域活動の根幹の組織は自治会なので、そこへしっかり手当てすることを本気で考えてほしい。それをやっていくのは自治会長だから、自治会長を支援、サポートする。自治会長の自覚、意識、意欲を高めるような研修等、何らかの機会をサポートできるような機会を作っていただきたい。年1回連合自治会総会の会長会があるが、基本の組織の自治会の会長を支援、サポートするような研修や手助けするようなことをしていただきたい。

(市長)

お城も予兆があった。地盤の北3分の2くらいは硬い岩盤に乗っているのが比較的安定しているが、南側は盛土で非常に不安定である。昔から崩れていて、今回崩れた中に山崎時代の昔の石垣が埋まっていたのが発見された。今回崩れた帯曲輪は昭和52年と53年に修理している。手を入れなければならない場所であったが、合併直後の補助金がカットされた時代に、丸亀城の保存整備計画が10年余り凍結され、最小限の維持管理のみがされていた。それでは危ないということで、平成26年に文化庁に相談し、修復の準備をしていた。そして工事に入ろうとしていた7月7日に最初の崩落が起こった。想定外の雨は今後もあるから、財政が厳しくても必要なメンテナンスは行うというのが今回の教訓である。

もう1つは、お城を管理する場所がはっきりしていなかった。文化財は教育委員会、観光施設は産業観光課、都市公園は都市計画課と3つの課でやっていたので連携が悪い。今年度の終わりに機構改革を行うが、可能であれば丸亀城総合事務所のようなものを作って、そこでメンテナンスから管理、活用までしたい。今回の教訓を活かしたい。

新市民会館については、市役所の完成が来年の10月にはほぼ完成する。市役所併設で市民交流活動センターができる。市民が自由に出入りでき、その周りは皆さんがくつろげるような場所にしたい。歩行者天国のような形にするのが今の計画です。そこにはコンビニもできるようにする。しかし、それだけではいけないので、市民会館の

中にどんなものを創るかというのは、今おっしゃっていただいた意見が出ております。十分検討して計画の中に反映していきたい。市民広場側、現在の市役所側は全部建物を除けて見晴らしよくして、そちらにもくつろぎのスペースを創るのは可能だと思う。

自治会加入については、自治会長をどのように元気を出してやっていただけるか考えたいと思う。自治会がしっかりしているということは、単に連絡がいいということではなく、町全体がくらしやすいために非常に重要です。例えば児童虐待や高齢者のひとり暮らし等、地域の中で早く発見できたり、改善できたりするのは自治会である。自治会へのお金を減らすことで町全体の損失は非常に大きい。自治会活動がきちんとしている方が全体の効果が高いということで行っている。

④ 通学路について（新田青葉団地自治会 男性）

毎朝立哨しながら子供たちを見守っている。ゆめタウンから城西高校の間に押しボタン信号機がある。その南側、新田町や今津町に多くの宅地造成が進んでいる。また宮野病院が建設されている。その前にはニチイ学園の保育所が建設される予定である。この道が大変傷んでいる。この区間に通学路の表示を電柱等に立ててほしい。来年度の工事完了後には、幼稚園の送り迎えや病院の診察等で交通量が増加するのが見込まれる。通学路でもあるので舗装をし直したところにカラー舗装をお願いしたい。それまでの間は通学路の表示をして注意喚起をお願いしたい。

⑤カーブミラーについて（ 〃 ）

南へ押しボタン信号から突き当たったところとその反対側にカーブミラーを設置しています。これは市役所が設置したカーブミラーではありません。地元の業者のヒカリさんに設置してもらっています。墓地のところに大きいカーブミラーと小さいカーブミラーを設置してもらっている。市が交通安全のために設置したカーブミラーではない。工事完了までに正式なカーブミラーの設置を市にお願いしたい。

もうひとつは高齢者の交通安全で、市で高齢者の免許返納の補助をされております。自主返納した後に、買い物等に行けない交通難民の人達が出てくる対策としての方向性をお示しいただきたい。文書で書いているので後ほど提出したい。

（市 長）

通学路表示は、学校とも相談して現地を調べて効果的なところにつける。カーブミラーについては、市が絶対つけないといけないということではないので、こういう形のカーブミラーは市内随所にあるので、これはありがたく使わせていただく。担当者が現地を確認させていただく。

免許返納後の対策については丸亀の重要な課題であり、今年度から試験的にコミュニティ単位で近いところの移動を、運転手はボランティアで、車や保険等の対策は市で用意し、運行、運転は地元の方でお願いする移動支援のモデル事業を始めることにしている。いくつかの自治会で検討してくれている。例えば家からコミュニティセンターまで送ってもらい、ガソリン代の実費を払うというしくみである。社会全体が高齢化する中でどうやって生活できるかの対策で非常に重要である。この事業をやりながら、これ以外の方法も検討していきたい。

懸案事項1 車の運転免許証返納して思うこと（男性）

免許証を返納して2年半くらいになる。その後は、ゆめタウンからバスに乗っていて、不自由はしていない。城坤コミュニティセンターエリア内に一人ぐらしで80歳以上が250人、70歳以上は500人くらいいる。高齢者の事故が問題になると、免許返納しましょう。その代わりにコミュニティバスの隙間にはコミュニティタクシーを走らせましょう。5～6年前くらいからこれを何とかしたいと考えていた。今回市から車を出すからコミュニティで運転してほしいという話があった。問題は75歳以下の運転手という条件が付く。地域を回ったが、荷物は運んでもいいが、人を運ぶのは勘弁してほしいというのが大半であった。タクシー会社の知り合いに聞き3人ほど運転してもいい人がいたが75歳を超えていたので認められなかった。新たに75歳以下の人を探さなければならない。そこで広島に話を聞きに行ったりした。広島ではコミュニティバスのない時間帯の早朝と最終にコミュニティでバスを運行している。また何らかのお願いをしたいと思う。

（市長）

7月から免許証返納者への助成を行っている。ご家族等に周知をお願いしたい。ボランティアの運転が無理かどうか、市の今の考え方でやれるかどうか、お互いに研究しながら進めていきたいのでご協力をお願いしたい。広島はコミュニティバスの運行自体を地元コミュニティが行っている。島という事情もある。コミュニティバスが主軸なので、停留所やコミュニティセンターまで来れるように考えたい。

⑥水害と浸水対策（宮浦自治会会長 男性）

宮浦自治会は西汐入川の支流が3本ある。その合流地点に水門が2本ある。近年、異常気象、集中豪雨の問題があり、数年前床下浸水がたくさんあり水害について敏感になっている。水門を閉めるから水位が上がり家の前は川のようになる。最近、水

中ポンプを一つの支流は2基、もう一つは1基設置して対応している。問題は台風と大潮が重なったときが大変である。みんな大変困っている。市は対応と対策を考えているか。もう一つ追加すると、近年この周辺は非常に住宅化が進んでいる。従来に増して田んぼのプール化機能が低下しているので降った雨水が下流に集中的に来る。そして水門を閉めるので逃げるところがない。市で抜本的に取り組んでいただきたい。

(市長)

大変申し訳ないと思っている。平成26年の台風の時にひどく浸水した時がある。かねてからそういう話があったので、ポンプの増設、水路の嵩上げ等の対策を順次進めており、ここ2年くらい大きな浸水がなくなって安心していたらこの間台風でないのに高潮で道路が冠水した。なぜかという西汐入川の海に入るところに県の水門がある。そこは海の水位が上がったら自動的に閉まるようになる。その時内の川の水門が開いたままになっていて逆流して浸かった。水門を管理している皆さんに注意喚起をした。根本的に住宅が増えて今までよりたくさん水がくる、豪雨も何回もあるということになった場合、今考えているのは水を出すしかない。出す場合西汐入川の県河川で、市は何度も要望しているが応じてくれていない。県に対して引続き要望を行う。台風の時には西汐入川の大きい水門のところに国交省の大型ポンプを設置し川から海へ出す。内水から水中ポンプで川へ出す。この方法しかないと思う。水路を広げても、最終のところでは西汐入川が一杯だったら無理である。とにかく水を出すことでポンプの増設、特に浸かりやすい箇所は壁を高くするという対策を順次行うことにしている。個別のこの地域がどうなっているのか現状の確認は下水道課で受けている。

(宮浦自治会会長 男性)

追加ですが、私が住んでいるところは市道と私道が混じっている。市道は側壁の嵩上げ等優先的に進んでいるが、他の所は管轄外で放置されがちになっている。市は対応しないのか。以前市に行ったときに、丸亀市道でなく私道なので個人のところに行ってくれということだった。現実はかなり広範囲な住宅地になっているが、その場合の対応はどうなるか。

(市長)

基本的には個人の財産であるので勝手にはできない。了解を得なければならない。

(宮浦自治会会長 男性)

市は関与しないということか。

(市長)

関与しないのではなく、話にも行くし、協力も求める。工事費を市が持つというこ

ともないことはない。状況とケースによる。団地内の道路はみんなが区分所有しているので誰が責任者か分からない状態である。最近は大規模開発するときには先に市道に寄附している。そうでないところが丸亀にはたくさんある。土地の持ち主に協力をお願いしてやらなければならない。

⑦排水と道路について（丸亀第二団地 男性）

ゆめタウンの周りに住宅が増えている。田んぼがなくなってきている。丸亀第2団地の周りも先日の雨で川になっていた。家の中まで水は入ってないが、言えることは、病院ができ住宅ができ益々水位が上がってくることが考えられる。一地域だけの問題でなく、ずっと上の方まで考えた排水処理、水利組合のこともあるが、十分に懸案して対策を考えていただきたい。もうひとつ、団地の北側に水路と道路が平行している。最近車が増えてきている。ゆめタウンの方を通る車が近道したり、子供たちやごみ収集の車を何台かが待ちわびたりしている。時間にしたら数分であるが、今すぐどうするという事ではないが、こういう問題があるということを考えておいてほしい。

（市長）

上流から根本的に直すのは難しい。大規模な排水の工事をしたらどうか、道路幅を広げたらどうかとかアイデアはあると思うが、それに係る莫大な費用に対して効果は限定的であるし、時代が変わるとそれも役立たない可能性がある。対処療法に見えるかもしれないが、問題があったところについて、それをどう解決するかという考え方でやる必要がある。田村第2団地はそういう必要性があるところだと思うので、こういう状況であるという情報提供を担当にしていきたい。

⑧浸水に関して（今津経田自治会 男性）

今津のローソンの交差点近辺は何年か前に浸水して、家の前まで水がきたという状態だった。先ほど水門が閉まっていなかったという話を聞いたが、地元においても「どうしてこうなったのか。水門が故障していたようだ。」というのを後から聞いたことが何年か前にもある。どうして故障していたのか、そういうことを地元の人には全く知らない。こういう対応した、こう修理した等地元の人に周知していただけるような方法をとっていただきたい。自治会としてはみんなが心配ないようにしたいが、情報が少ないので自分自身がどうすればよいか判断できない。周知をお願いしたい。

（市長）

そういう方法を担当に相談したい。自治会の会に担当者が出席して、自治会としてのハ

ザードマップを職員と一緒に考えるのもいいかもしれない。まめに相談していただき対策を考えていければいい。

(男性)

自治会のテーマとして市に持っていかないと市はなかなか動かない。できるだけ大きな人の集まりで市へ要望するのがいい。参考までに。

(男性)

関連で、西汐入川の関係で下流の新浜町に水門がある。そこが海と川の水を調整しているところですが、基本は海が干潮になったら川の水は流す、満潮になったら閉める。海が干潮になっているのに川の水が流れていない状況がある。新浜町の西汐入川の海との水門の管理をきちんとしたら大部分は解消されるのではないか。海と川の水門管理をきちんと迅速にしていきたい。十分できていないと考えている。

(市長)

調べてみるが通常は自動で管理している。川が高ければ開けて流す。海が高ければ閉めて流さない運用である。これ以外の取扱いがあれば調査させてほしい。

⑨自治会加入について（新田青葉団地自治会 男性）

コミュニティや自治会に加入していただくためには、PTAにその地域の問題提起されたことを具体的に話し合うことによって前進すれば自治会に加入する話をもっていけるのではないかと思う。コミュニティでもPTAや学校長との懇談を行っているが、具体的な要求事項の掘り下げを行う中で、コミュニティ自治会加入促進を行ったらいと思う。押しボタンの信号機で昨年も調査していただいたが1回押すと1分待たなければいけない。数班の児童がそこで待ち渡りきれない。具体的に7時25分から45分まで待ち時間を45秒とか30秒にしていただければと思う。そのような取組みと併せて自治会の加入促進の取組みをコミュニティにお願いしたい。青パトのドライブレコーダーを設置していただき感謝している。

(市長)

川西コミュニティで自治会の加入率が50%を切っていたのが54%ぐらいまで回復した。コミュニティ自治会を作って取組みをされている。押しボタンの待機時間は調査をさせていただく。

⑩防災意識を高める（中津久国自治会 男性）

昨年の西日本豪雨の後に自治会で水害の意識調査を行った。回収率90%で多くの人に

回答していただいた。近くに危険な川があるかという質問に金倉川と答えた人が 85%あった。過去に金倉川でどのような危険があったかと聞くと曖昧な部分がある。県に確認するとそういうデータは残っていない。市もそうだったと思う。防災意識を高めていくには情報を共有することが大事である。いつ、どの辺りで、どの程度の被害あったかまとめてほしい。後の人に話しを伝えていくことが防災意識を高めることに繋がっていくと思うのでぜひお願いしたい。

(市長)

市長として知る必要があるので調べてみたい。

(男性)

ここ何十年間は金倉川の堤防が決壊することはなかったが、昨年陸上競技場の近くの西側の堤防で決壊寸前だった。以前川の中に木が生えていたので県に木を切ってもらったら、木の根で法面を保護しているとの苦情を言われたことがある。昔は堤防がよく決壊していた。歴史を遡って調べてみるのはいいことだと思うのでよろしくお願いします。

城坤コミュニティセンター市長懇談会の質問・意見等に対する回答

●今津のローソンの交差点近辺は何年か前に浸水して、家の前まで水がきたという状態だった。先ほど水門が閉まっていなかったという話を聞いたが、地元においても「どうしてこうなったのか。水門が故障していたようだ。」というのを後から聞いたことが何年か前にもある。どうして故障していたのか、そういうことを地元の人には全く知らない。こういう対応した、こう修理した等地元の人に周知していただけるような方法をとっていただきたい。

(回答：農林水産課)

経田地区では、潮位が高い時間帯に大量に雨水が西汐入川に流れ込むことで、河川の水位が大幅に上昇し用水路を逆流する場合があります。これを防止するため、西汐入川に流れ込む水路には、その接続箇所に樋門が設置してあり、逆流が発生する恐れがある場合には地元水利組合に注意喚起し、状況に応じて樋門の操作を行っていただいているところです。

また、逆流を防ぐために樋門を閉めた状況下において、雨水等の排水ができなくなれば、内水面（陸地部）の水位が上昇し道路冠水等の危険性も出てきますので、そうならないよう排水ポンプを稼働させて被害の防止に努めているところであります。

また、同地区において樋門管理者がいない箇所及び樋門の老朽化が見られる箇所につきましては、河川管理者である県が本年度に改修工事を予定しているところです。

いずれにいたしましても、今後、このような情報につきましては地元コミュニティを通じてお知らせをしたいと考えております。

●西汐入川の関係で下流の新浜町に水門がある。そこが海と川の水を調製しているところですが、基本は海が干潮になったら川の水は流す、満潮になったら閉める。海が干潮になっているのに川の水が流れていない状況がある。新浜町の西汐入川の海との水門の管理をきちんとしたら大部分は解消されるのではないかと。海と川の水門管理をきちんと迅速にしたい。十分できていないと考えている。

(回答：建設課)

ご指摘の西汐入川防潮水門の運転についてですが、通常は自動運転で管理をしています。具体的には、水門を挟んで川側の水位が海側の水位より40cm以上高くなれば水門が開きます。それにより5cm未満の水位差が20分間続けば閉まります。この繰返しを行いながら西汐入川の水位を管理しています。

また、台風等の大雨が予測される時は、事前に干潮に合わせて手動運転により水門を開け

ておき、西汐入川の水をどんどん海へ流すことにより、あらかじめ水位を下げ、大雨に備えています。

さらに、大雨の満潮時には、職員が水門に常駐し、常に川側と海側の水位を注視しながら、状況に応じた運転を行い、西汐入川の水を出来るだけ早く海へ流すようにしています。

以上のような運転管理を行い、水害の軽減に努めていますのでご理解の程よろしく願います。

●城西高校～ゆめタウン間の押しボタンの信号機で昨年も調査していただいたが1回押すと1分待たなければいけない。数班の児童がそこで待ち渡りきれない。具体的に7時25分から45分まで待ち時間を45秒とか30秒にしていただければと思う。

(回答：環境安全課)

信号の待ち時間短縮に関するご要望について、警察に相談した結果をご報告いたします。歩行者用の青信号の秒数は横断距離に応じて、また信号の周期については、その道路における交通量やその他の信号など周辺の道路環境を総合的に考慮し設定されます。

本信号については通学時間帯の横断人数の調査や現在の交通量などから、待ち時間を含めた時間設定は妥当であり、また10秒単位の大幅な時間調整は車道側の交通渋滞を招いたり、あるいは交通事故を誘発する恐れがあるため対応は難しいという回答でありました。

このようなことから、交通ルールを守ることの大切さや右・左の安全確認など基本的なことではございますが、今までと変わらず児童らにご指導いただきますよう、よろしく願います。